

メンズウェアにおけるフェミニン要素の導入とその受容性 ーリボンに着目してー

A22AB024 太田 綾乃

1.はじめに

近年、ファッションにおける価値観は大きく変化しており、性別による区分や固定的な「男性らしさ」「女性らしさ」にとらわれない自由なスタイルが広く受け入れられるようになっている。従来のファッションでは、性別ごとに適したシルエットや素材、装飾が明確に分けられてきたが、ジェンダー観の多様化やSNSを通じた個人表現の広がりにより、その境界は次第に曖昧になりつつある。

こうした流れの中で、「リボン」は注目すべき装飾要素の一つである。リボンは歴史的に、17世紀のヨーロッパにおいて男性貴族の衣装にも用いられていたが、近代以降は女性的・装飾的なモチーフとして定着してきた。そのため、現代においてもフェミニンな印象を強く持つ装飾とされている。一方、近年ではSNSを中心に「バレエコア」と呼ばれるスタイルが流行し、リボンは自己表現や個性の象徴として再解釈されている。また、Diorの2025-2026年秋冬メンズコレクションにおいてもリボンを取り入れたデザインが発表され、メンズウェアにおけるフェミニン要素の導入が進んでいる。

しかし、一般の人々が男性のリボン着用をどのように受け止めるのか、特にリボンのサイズや太さによる印象変化については十分に明らかにされていない。そこで本研究では、メンズウェアにおけるフェミニン要素の受容性を明らかにすることを目的とし、リボンに着目したアンケート調査および官能検査を行った。さらに、その結果をもとに、受容性の高いリボンデザインを反映した男性服の制作を通して、新たなデザインを提案した。

2.研究方法

2-1 リボン付きメンズ服の印象に関するアンケート調査

被験者10~20代の女子大学生48名および男子大学生82名、計130名に対して、リボン付きメンズ服を着用していることに対しての抵抗感を「まったくない」「やや抵抗感がある」「強く抵抗がある」「興味がある」「状況による」の5段階評価と、リボン付きメンズ服を着用している男性にどのような印象を持つかを「おしゃれ」「かわいい」「女性的」「個性的」「似合う人は似合う」「好ましくない」から回答させた。調査は、Googleフォームにてオンライン形式で行った。

2-2 視覚評価実験

リボンを取り入れたメンズ服の受容性を明らかにする目的として、視覚評価実験を行った。

試料は、リボンの幅が50mm、36mm、18mm、9mm、4mmの5種類とし、大きさが大15cm、中10cm、小5cmの3種類を採用した。なお、リボン幅50mmで5cmのリボンを作成することは困難

であることから、計14種類を試料とした。リボンは同一素材（サテン）・同一色（黒）とし、ボードに灰色の布地をはり、リボンを等間隔に配置した（図1）。

評価項目は、「好きな-嫌いな」「女性が着用してもよい-着用してほしくない」「男性が着用してもよい-着用してほしくない」「男性で身近な人（家族・友人・恋人）が着用してもよい-着用してほしくない」の4形容詞対とした。

実験は、2-1と同一の130名を被験者として、14種類の試料を提示し、SD法による5段階評定の官能検査を実施した。回答はGoogleフォームにて回収した。

さらに、得られた評価より平均官能量を算出するとともに、数量化Ⅰ類にて関与する要因を検討した。

3.結果および考察

3-1 リボン付きメンズ服の印象に関する調査結果

リボン付きメンズ服に対する印象について現場調査を行った結果、抵抗感に対しては「やや抵抗がある」と回答した人が最も多く、「まったくない」と回答した人が次に多い結果となった。性別で比較すると、女性は「まったくない」と回答した人が多く、男性は「やや抵抗がある」と回答した人が多かった。また、印象に関しては「個性的」「似合う人は似合う」「おしゃれ」と回答した人が多かった。以上より、女性よりも男性の方が抵抗感を感じる人が多いが、全体的には否定的な意見の人は少なかった。

3-2 視覚評価実験の平均官能量

4形容詞対について官能検査を算出した。ここでは「男性が着用してもよい-着用してほしくない」「男性で身近な人（家族・友人・恋人）が着用してもよい-着用してほしくない」を図2に示した。「メンズウェアにおけるリボンは、男女共に幅が細くサイズが小さいものほど平均値が高い傾向が確認された。特に0.9cmおよび0.4cmのリボンでは、「男性が着用してもよい」という評価が高かった。また、女性は男性より肯定的に評価する一方で、身近な男性が着用する場面では評価がやや低下することが判明した。



図1 リボンの試料

3-3 視覚評価実験の数量化Ⅰ類による分析結果

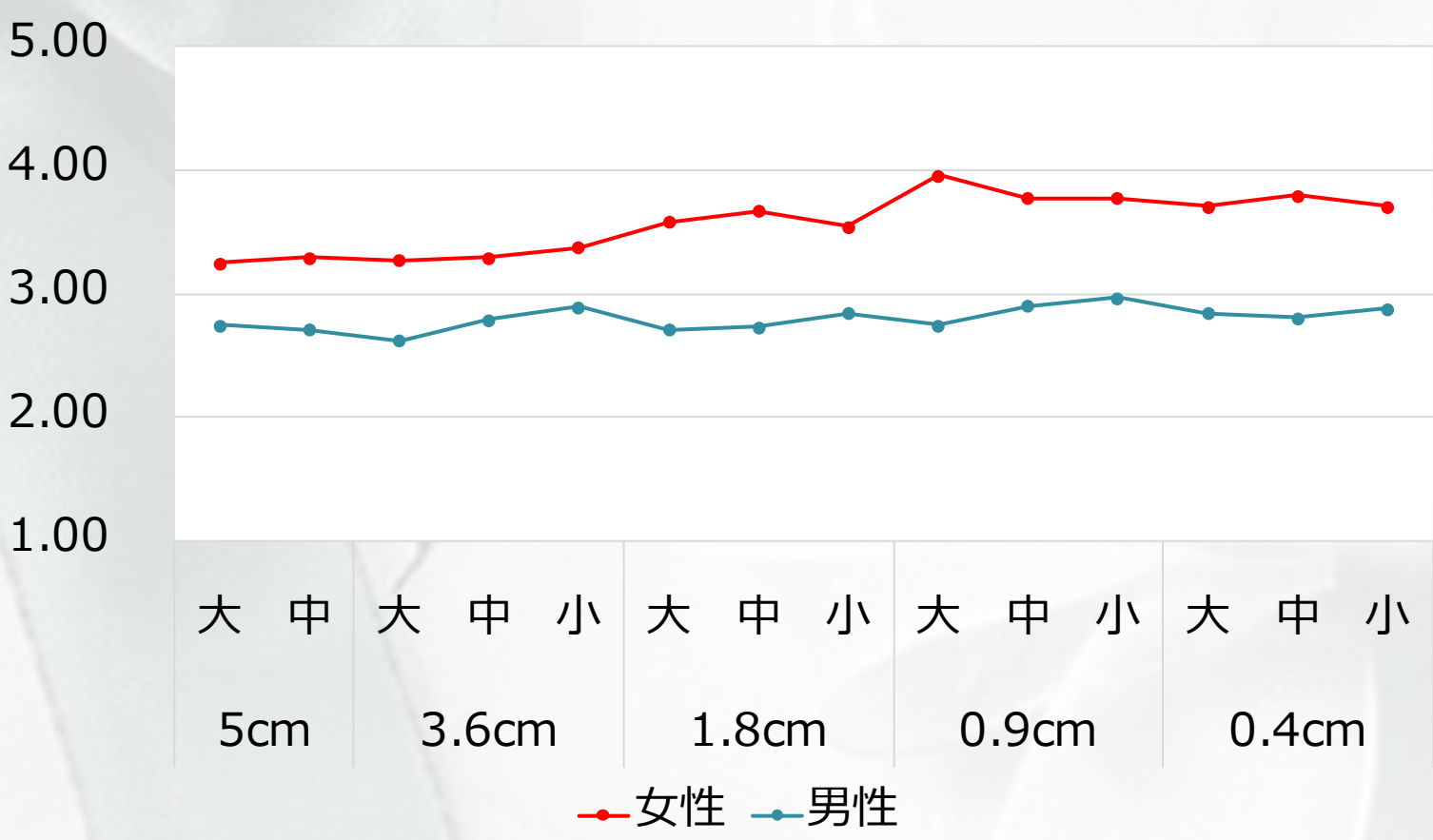
リボンの幅および大きさが男性服における受容性評価に及ぼす影響を明らかにするため、平均官能量を目的変数、リボンの幅、大きさを説明変数として数量化Ⅰ類による分析を行った（表1）。

偏相関係数より、女性は「好きな-嫌いな」を除く形容詞対でリボン幅、男性はすべての形容詞対でリボンの大きさが大きく影響していることがわかった。なお、各項目における重相関係数の2乗は0.7以上であり、説明力を有していると考えられる。

4.作品制作

細く小さなリボンが最も男性が着用してもよいという結果をもとにメンズ服の制作を行った。リボンの色を服の色と合わせることと、脇の部分に結びによるディテールとして取り入れることで、全体のデザインに自然に馴染むよう配慮した（図3～4）。完成した作品は図5に示した。

男性が着用してもよいー着用してほしくない



男性で身近な人(家族・友人・恋人)が着用してもよいー着用してほしくない

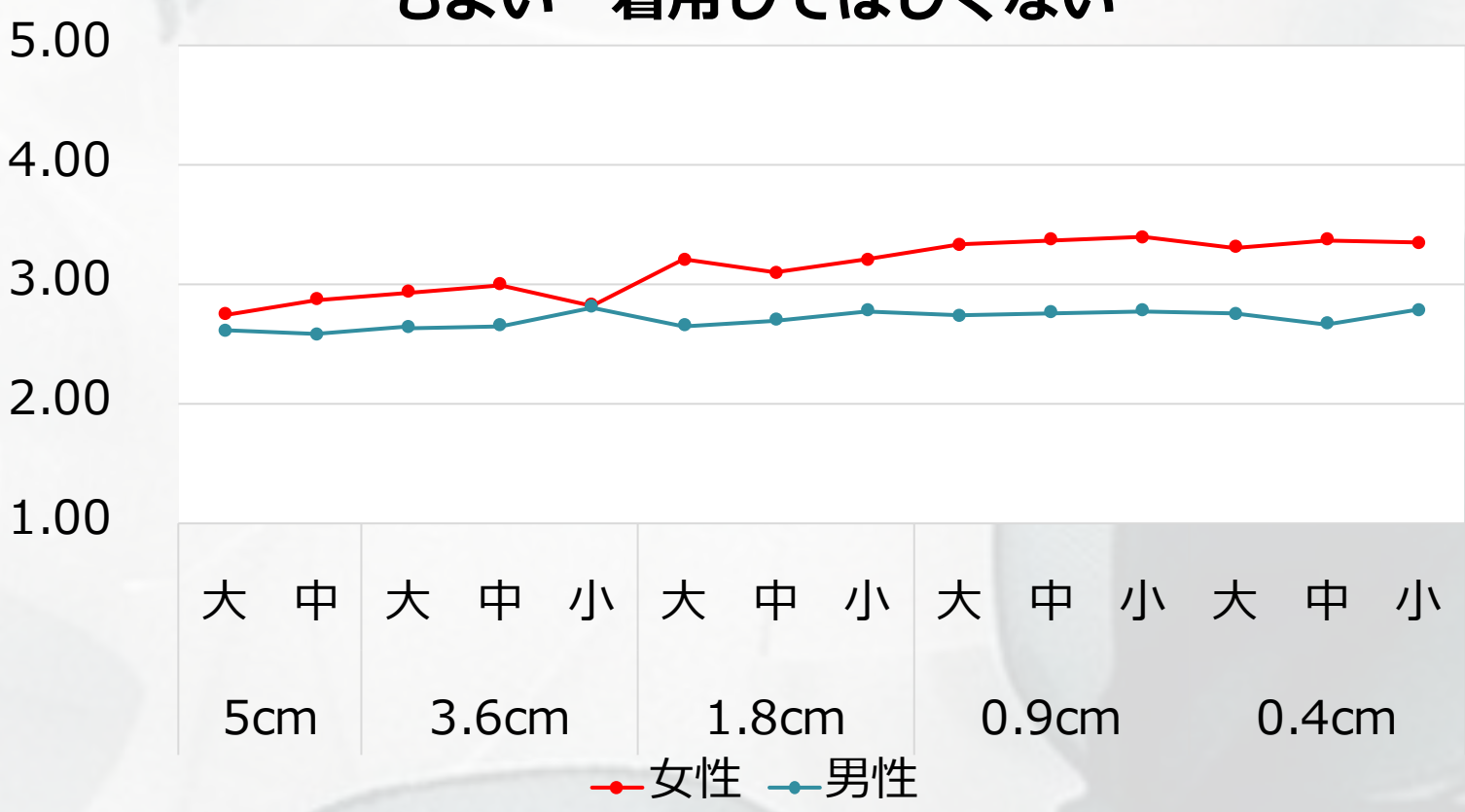


図2 平均官能量



図3 デザイン画



図4 試作品

表1 数量化Ⅰ類分析結果

カテゴリ		好きな-嫌いな		女性が着用してもよいー着用してほしくない		男性が着用してもよいー着用してほしくない		男性で身近な人が着用してもよいー着用してほしくない	
		カテゴリ数量	偏相関係数	カテゴリ数量	偏相関係数	カテゴリ数量	偏相関係数	カテゴリ数量	偏相関係数
リボン幅	0.4cm	-0.162	0.806	-0.087	0.846	0.168	0.971	0.200	0.978
	0.9cm	0.123		0.066		0.265		0.221	
	1.8cm	-0.002		0.045		0.029		0.027	
	3.6cm	-0.037		-0.059		-0.256		-0.223	
大きさ	5cm	0.116	0.873	0.054	0.481	-0.308	0.259	-0.337	0.333
	小	0.067		0.033		-0.022		-0.006	
	中	-0.183		-0.022		0.005		-0.017	
大きさ	大	0.129	0.873	-0.005	0.481	0.013	0.259	0.021	0.333
	大	0.129		-0.005		0.013		0.021	
定数項		4.213		4.626		3.570		3.147	
重相関係数		0.911		0.854		0.971		0.978	
重相関係数の2乗		0.830		0.729		0.944		0.956	

カテゴリ		好きな-嫌いな		女性が着用してもよいー着用してほしくない		男性が着用してもよいー着用してほしくない		男性で身近な人が着用してもよいー着用してほしくない	
		カテゴリ数量	偏相関係数	カテゴリ数量	偏相関係数	カテゴリ数量	偏相関係数	カテゴリ数量	偏相関係数
リボン幅	0.4cm	-0.013	0.567	-0.095	0.787	0.038	0.727	0.022	0.794
	0.9cm	0.048		-0.001		0.066		0.046	
	1.8cm	0.040		0.027		-0.044		-0.002	
	3.6cm	-0.046		0.007		-0.036		-0.010	
大きさ	5cm	-0.043	0.872	0.093	0.821	-0.036	0.815	-0.084	0.805
	小	0.140		0.097		0.090		0.065	
	中	-0.117		-0.064		-0.064		-0.022	
大きさ	大	0.005	0.872	-0.013	0.821	-0.008	0.815	-0.030	0.805
	大	0.005		-0.013		-0.008		-0.030	
定数項		3.069		3.702		2.798		2.713	
重相関係数		0.893		0.872		0.877		0.905	
重相関係数の2乗		0.797		0.761		0.770		0.820	



図5 完成作品

5.おわりに

本研究の結果から、メンズウェアにおけるリボンの受容性には、リボンの幅や大きさといった形状が大きく影響することが明らかとなった。特に、細く小さなリボンは男性服として受け入れられやすい傾向が見られた。

本研究を通して、今後の男性服デザインにおいて装飾表現の幅を広げ、新たなファッションの可能性を見出す一助となれば幸いである。

6.参考文献

- 「ディオール2025-2026冬メンズコレクション発表」
FASHION HEADLINE
fashion-headline.com/en/article/420554
(2025年12月1日閲覧)